

「ドン!」ときたら、 「グラッ!」ときたら

あわてず確実に

発生!

- まず身を守ることに徹します。机やベッドの下に身をかくし、寝ているときはふとん・枕で頭を守ります。
- 小さなゆれでも火を消す習慣をつけておきます。ただし、自動的にガスの供給を遮断するガスマイコンメーターが設置されているので、無理をしてはいけません。



1~2分後

- 家族の安全を確認します。家屋の倒壊・山崩れなどの危険があればただちに避難します。屋外に出るときは割れたガラスや瓦、看板が落ちてこないか十分注意します。

- 避難口を確保します。ドア・窓を開けて脱出口を確保します。集合住宅はドアが開かなくなることがありますが、窓は比較的開きやすくなっています。



- 火元の確認と初期消火をします。
- 屋内でもくつをはきます。ガラスなどから足を守り、すぐに避難できるようにしておきます。

3~5分後

- 非常持出品を手元に用意します。
- 近所の出火を確認します。

情報



- 情報を収集します。テレビやラジオなどから正しい情報を集め、デマにまどわされないようにします。

5~10分後

- 地域の災害時要援護者の安否を確認します。

10分後~ 数時間後

- 余震による家屋の倒壊や、火災の延焼などの危険があれば避難します。
- 子どもを学校などにむかえに行きます。

- 出火を防止します。ガスの元栓を閉めます。自宅をはなれるときは、電気のブレーカーも落とします。
- 自宅をはなれるときは、行き先をメモに書いて玄関など目立つところにはります。



~3日

- 自主防災組織やとなり近所と協力して救助救出、消火活動を行います。消防署等への通報もします。
- 避難するときは集団で行動します。避難は徒歩とし、ブロック塀、切れた電線、ガラス窓には近づかないようにします。
- 情報を収集します。県市町の広報に注意します。

- 非常備蓄品を取り出します。自足の生活が原則ですが、地域での助け合いも大切です。

助け合い

